

TOEI TRANSPORTATION

東京都交通局

経営計画

2019

「東京都交通局経営計画 2019」

令和 3 年度進捗状況



令和 4 年 7 月



すべての「今日」のために。

都営交通

「東京都交通局経営計画 2019」 令和 3 年度進捗状況

交通局では、平成 31（令和元）年度から令和 3 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2019」を平成 31 年 1 月に策定しました。

東京の都市活動や都民生活を支える公共交通機関として、安全・安心の確保を最優先に、質の高いサービスを提供するとともに、まちづくりとの連携や観光振興、環境負荷の低減などを通じた東京の発展への貢献など、様々な取組を進めてきました。

一方、令和 3 年度の乗車料収入は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した令和 2 年度から一部回復が見られたものの、依然としてコロナ禍前の水準を下回っており、財政収支目標については、軌道事業、電気事業のみの達成となりました。

こうした厳しい経営状況の中、本計画に掲げた事業について、安全の確保に最大限配慮しつつ、実施する規模や時期の見直しなどを行いながら、取組を進めました。

令和 3 年度の主な進捗状況

■安全・安心の確保

- ・浅草線の東銀座駅にホームドアを設置したほか、令和 5 年度までに全ての駅へのホームドア整備を完了するため、準備工事等を進めました。
- ・浸水対策の強化について、駅の出入口の止水板設置工事等を実施するとともに、大規模水害時を想定した交通局版タイムラインに基づき、お客様の命を守るための訓練を実施するなど、ハード・ソフト両面から取組を進めました。
- ・浅草線及び三田線について、地下鉄構造物の計画的な補修工事等の長寿命化工事を進めたほか、高架部の橋脚及び地下部の中柱の耐震補強を実施しました。

■質の高いサービスの提供

- ・三田線の輸送力増強、お客様の利便性向上に向けて、8 両編成の新型車両の試験等を順次行うとともに、令和 4 年度の運用開始に向け、ホームドア等の駅施設の改修を進めました。
- ・新たに乗換駅等にエレベーターを設置しバリアフリー化を進めるとともに、大江戸線環状部において駅トイレの洋式化を 15 か所で実施し、計画どおり、対象箇所の整備を完了しました。
- ・旅行者向けの企画乗車券の販売や、観光情報の提供等を行うツーリストインフォメーションセンターを新橋駅と新宿西口駅に設置しました。

■東京の発展への貢献

- ・浅草線において、新型車両を 5 編成導入するとともに、泉岳寺駅の改良について、ホームの拡幅やコンコースの拡張、エレベーターの増設などに向け、準備工事を進めました。
- ・民間企業からの寄付により燃料電池バスを新たに 1 両導入し、計 71 両運行するとともに、地下鉄の駅や車両、バス停留所の上屋や標識柱に LED 照明を採用するなど、環境負荷の低減に取り組みました。
- ・小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車をご利用いただけるよう、大江戸線で子育て応援スペースを設置した車両を 6 編成追加し、計 13 編成運行しました。

■経営基盤の強化

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）等の利活用に向けた取組を進めるとともに、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置を拡大するなど広告事業を積極的に展開しました。

■東京 2020 大会の成功に向けた取組

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により原則無観客開催となったものの、大会期間中は、バスによる選手やメディア関係者等の輸送を行うとともに、大会の気運醸成に向け、駅構内への装飾など様々な取組を実施しました。

1. 安全・安心の確保

安全・安心を最優先し、災害に強く、事故のない都営交通を実現するため、全職員が一丸となつて取組を進めました。

◆ 安全対策の強化

(1) 安全管理の持続的向上

- 災害等の異常事態に対する即応力の維持・向上のため、情報伝達訓練等を引き続き実施しました。
- 都営地下鉄においては、駅構内でのテロを想定した東京メトロとの合同訓練を実施したほか、警察等と連携した不審者対応訓練を実施しました。
- 都営バスにおいては、更なる安全性の向上を図るため、左折時警報装置やソナーセンサー*¹の導入拡大など、車両の装備を改善するとともに、全車に設置したドライブレコーダーや運転訓練車*²、教習兼用車*³等を活用した的確な指導を行いました。



不審者対応訓練の様子

*1 音波によってバスの前後にある障害物の接近を検知し、音や表示で運転手に知らせる装置
 *2 運転手の視線、車内の揺れ、前方や側方の距離などを計測する様々なセンサーやカメラを搭載したバス車両
 *3 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

(2) ホーム事故「0」を目指した取組

- 浅草線のホームドアについて、東銀座駅に設置を行ったほか、令和5年度までの全駅整備完了に向けて、準備工事等を進めました。
- お客様が乗降時にホームと車両のすき間に転落することを防止するため、三田線三田駅に1台設置している可動ステップについて、同駅他の必要な箇所への設置に向けた準備を進めました。



浅草線ホームドア

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕浅草線へのホームドア整備				
計画	準備工事	先行4駅整備完了 (東京2020大会まで)	ホームドア製作等	令和5年度までに 交通局全駅への整備完了
実績	(先行4駅) 整備完了	—	—	
	(全駅整備) 仕様検討・発注	準備工事	1駅設置 (累計5駅)	

◆ 災害対策等の強化

(3) 首都直下地震への備え

- 東日本大震災を踏まえ、施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るため、更なる耐震対策として、高架部の橋脚及び地下部の中柱の補強を順次進め、約5割の補強を完了しました。
- 地震発生時等の閉じ込めの際においても最寄階に着床するリスタート機能付エレベーターへの更新について、契約不調により一部の駅で遅れが生じましたが、2駅のエレベーターを更新しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の早期運行再開を図るための耐震対策				
計画	順次実施	→	約5割完了	阪神・淡路大震災を踏まえた国の通達に基づく耐震対策は実施済
実績	順次実施	→	約5割完了	
〔2〕リスタート機能付エレベーターへの更新（地下鉄駅）				
計画	12駅	4駅 (全対象完了)	—	
実績	10駅	4駅	2駅	

(4) 地下鉄の浸水対策の強化

- 順次公表されている新たな浸水想定区域を踏まえ、地下鉄駅出入口における止水板の高さの見直しや、止水板から防水扉への変更など、引き続き必要な追加対策の検討及び駅の出入口の止水板設置工事等を進めました。大規模水害の発生に備え、タイムラインに基づきお客様の命を守るための訓練を実施しました。また、最新の浸水被害のシミュレーションも踏まえ、被災後の早期復旧に向けより実効性の高い対策について検討を進めるとともに、車両を避難させる訓練を実施しました。

(5) テロ対策の強化

- 駅構内の防犯カメラについて、東京2020大会最寄駅等重点整備箇所への整備は完了していますが、その他の箇所の増設は、当初計画を見直しています。
- 東京2020大会開催時等に、映像を解析することで不審物の置き去りを検知する新技術を活用したカメラを導入し、セキュリティ対策を強化しました。
- 地下鉄の車両更新にあわせて、引き続き車内防犯カメラの設置を進めました。
- 関係機関と連携しサイバーセキュリティ対策やテロ対策訓練を実施するなど、テロ対策を強化しました。



車内防犯カメラ

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄における防犯カメラの増設				
計画	重点整備箇所への設置完了	その他の箇所に順次増設	→	
実績	重点整備箇所への設置完了	—	—	事業計画の見直し
〔2〕地下鉄車内への防犯カメラの導入				
計画	順次導入	→	→	
実績	順次導入	→	→	

※（６）非常時における電源の確保については、令和元年度に完了

◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

（７）施設等の適切な維持管理と計画的な更新

- 浅草線及び三田線について、地下鉄構造物の計画的な補修工事等、長寿命化工事を進めました。
- 大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設について、ケーブル洞道工事に着手しました。なお、竣工予定を当初計画から見直し、令和7年度としました。
- 大江戸線の信号保安装置について、運転効率や乗り心地を一層向上できるように、無線式列車制御システム（C B T C）*の導入に向けた仕様の詳細検討を行うとともに、安全性の検証などを進めました。



トンネル補修工事の様子

*無線を利用して地上と車上との間で通信を行い、列車の運行と制御を行う信号保安技術

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄構造物の長寿命化				
計画	順次実施	→	→	
実績	(止水対策) 浅草線・三田線完了	—	—	
	(長寿命化工事) 浅草線・三田線	(長寿命化工事) 浅草線・三田線	(長寿命化工事) 浅草線・三田線	
〔2〕大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設				
計画	実施設計	→	工事着手	令和6年度竣工（予定）
実績	実施設計	→	工事着手	令和7年度竣工（予定）

◆ 安定的な電力供給を支える基盤整備

(8) 安定的な電力供給を支える基盤整備

- 多摩川第三発電所の大規模更新に向けた更新計画を策定するとともに、今後の経営の方向性について、これまでに実施した民間事業者への予備的対話に加え、外部有識者からの意見聴取で得られた意見も踏まえ検討し、引き続き、交通局が自ら電気事業の運営を担うこととしました。



多摩川第三発電所

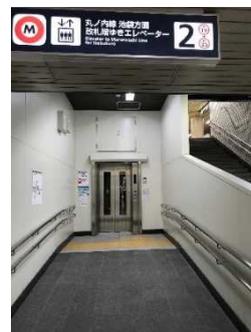
(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 発電所施設の大規模更新計画の策定				
計画	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査	更新計画策定	→	
実績	(多摩川第三発電所) 大規模更新に向けた 詳細調査	更新計画策定	→	

◆ 便利で快適な移動空間の創出

(10) 駅空間の質的向上

- より快適な駅空間を創出し、お客様の利便性を向上するため、三田線・新宿線神保町駅の大規模改良工事を完了しました。
- 乗換駅等でのエレベーター整備について、新宿線小川町駅に増設しました。
- 駅トイレについて、温水洗浄便座や出入口の段差解消、ベビーチェア・ベビーシートの増設、パウダーコーナーの設置などグレードアップは当初計画から見直しつつ整備を進めたほか、洋式トイレへの改修は予定していた全駅で完了しました。



新宿線小川町駅エレベーター

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考	
〔1〕乗換駅等でのエレベーター整備					
計画	順次増設	→	→	計9駅完了	
実績	2駅完了	6駅完了	1駅完了		
〔2〕トイレの改修					
計画	(洋式化) 順次整備	約9割	整備完了	大規模改良予定駅を除く	
	(温水洗浄便座) 順次整備	→	→	計64か所完了	
	(グレードアップ) 順次整備	→	→	計19か所完了	
	実績	(洋式化) 9か所完了	9か所完了 (約9割)	15か所完了 (整備完了)	
実績	(温水洗浄便座) 21か所完了	7か所完了	24か所完了	計52か所 完了	事業計画の 見直し
	(グレードアップ) 6か所完了	3か所完了	4か所完了	計13か所 完了	
	〔3〕ベンチのリニューアル				
計画	浅草線	三田線	新宿線		
実績	浅草線3駅	—	—	事業計画の見直し	

(11) 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 地下鉄車両の更新に際し、各車両へのフリースペースの設置、低い吊り手・荷棚の採用、優先席への縦手すりの追加、多言語対応の車内液晶モニターによる分かりやすい案内表示など、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた「人にやさしい車両」を導入しました。
- 浅草線について、5編成の新型車両を導入し、全27編成の車両更新を完了しました。大江戸線については、当初計画の4編成から変更し、2編成を導入しました。



大江戸線車両（左：外観 右：車内）

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄の車両更新				
計画	(浅草線) 7編成	7編成	5編成 (全27編成更新完了)	
	(三田線) —	—	9編成	
	(新宿線) —	—	4編成	(9) - (1)の再掲
	(大江戸線) 4編成	4編成	4編成	
実績	(浅草線) 7編成	7編成	5編成	
	(三田線) —	新型車両の試験等を開始	9編成	令和4年度運行開始
	(新宿線) —	—	4編成	
	(大江戸線) 4編成	4編成	2編成	

(12) バス停留所の快適性向上

- バス停留所の快適性向上に向け、規模を当初計画から見直しつつ、上屋・ベンチの整備を進めました。



バス停留所上屋

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕バス停留所上屋・ベンチの整備				
計画	(上屋の整備) 新設：50棟 建替：22棟	新設：50棟 建替：20棟	新設：45棟 建替：20棟	上記バス停留所上屋の内数 新設・更新を含む
	(うち広告付上屋) 20棟	20棟	20棟	
	(ベンチの整備) 77基	75基	66基	
実績 ※	(上屋の整備) 新設：29棟 建替：35棟	新設：14棟 建替：28棟	新設：8棟 建替：33棟	事業計画の見直し
	(うち広告付上屋) 56棟	23棟	27棟	
	(ベンチの整備) 77基	57基	44基	事業計画の見直し
〔2〕バスターミナル等への案内用デジタルサイネージの設置				
計画	2か所	2か所	2か所	
実績	3か所	1か所	—	事業計画の見直し

※実績については、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）事業者施工分を含む。

◆ 新たなバスモデルの展開

(13) 新たなバスモデルの展開

- 系統番号の漢字部分にアルファベットを併記した系統ナンバリングについて、前年度から引き続き4系統で実施しました。



アルファベットを併記した系統ナンバリング

◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

(14) 公共交通ネットワークの利便性向上

- 三田線について、令和5年3月に開業が予定されている東急新横浜線との直通運転に向けて、関係機関との調整を進めました。

◆ 旅行者にも利用しやすい環境の整備

(15) 案内サインや情報提供の充実

- 都営地下鉄において、引き続き、駅の案内サインの改修を進めました。なお、全駅の改修完了時期については、当初計画の令和4年度から令和8年度へ見直しました。
- 都営バスにおいて、車両のフルカラー行先表示器は、当初計画を見直し、令和3年度から導入を見合わせましたが、バス運行管理システム用車載器については、より精度の高い情報となるよう、通信方式と位置測位方式を変更する更新を進めました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄駅の案内サインの改修				
計画	東京2020大会関連重点駅完了	順次改修	→	令和4年度までに全駅完了
実績	東京2020大会関連重点駅完了 (大規模改良駅を除く)	東京2020大会関連重点駅完了	4駅改修	令和8年度までに全駅完了

(16)(17)旅行者の視点に立ったサービスの充実・おもてなしの心によるサービスの提供

- 駅構内に、海外で発行したキャッシュカードやクレジットカードでも利用できるATMや大型コインロッカーを増設しました。
- 外国人のお客様へ円滑な案内ができるよう、英会話研修等を実施し、職員の対応力の向上を図りました。
- コンシェルジュ（駅案内係）について、東京2020大会期間中、19駅に配置しました。
- 旅行者向けの企画乗車券の販売や観光情報の提供等を行うツーリストインフォメーションセンターについて、浅草線新橋駅及び大江戸線新宿西口駅に設置しました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕コンシェルジュ（駅案内係）の配置拡大				
計画	—	1駅拡大 (累計30駅)	—	
実績	—	30駅 (年度末時点28駅)	大会期間中19駅 (年度末時点15駅)	
〔2〕ツーリストインフォメーションセンターの設置				
計画	2か所設置	—	—	
実績	—	—	2か所設置	令和3年7月設置

(18) 海外を含めた多角的な広報の展開

- ホームページやSNS等を活用し、都営交通沿線の魅力のPRや情報発信を行いました。

◆ サービス品質の持続的向上

(19) お客様の視点に立ったサービスの提供

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」を活用し、グループインタビューにより子育て世代の声を聞くなど、幅広い世代からご意見をいただき、サービス向上策を検討、実施しました。
- 各職場においてサービス推進活動に取り組むとともに、優れた取組を局全体で共有するため、「交通局サービス推進発表会」を開催し、組織全体のサービスレベル向上を図りました。

(20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

- 駅や車内におけるマナー啓発や心のバリアフリー推進のため、ポスターや動画を作成し、都営地下鉄や都営バスの車内などでPRを行いました。
- 誰もが楽しく、気持ちよく公共交通を利用するためのマナーについて考える機会とするとともに、公共交通について愛着や親しみを感じてもらうことを目的として、小学生を対象に、絵画コンクールを開催しました。



マナーポスター

3. 東京の発展への貢献

首都東京が抱える様々な課題に果敢に挑戦し、東京の発展に貢献する都営交通を実現するため、取組を進めました。

◆ まちづくりとの連携

(21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

- 令和2年に開業60周年を迎えた浅草線において、デザインを一新した新型車両を5編成導入するとともに、各駅の街並みにあわせて、駅改装に向けた設計を進めるなど、リニューアル・プロジェクトを推進しました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕車両更新				
計画	7編成	7編成	5編成 (全27編成完了)	(11) - 〔1〕の再掲
実績	7編成	7編成	5編成 (全27編成完了)	
〔2〕駅改装				
計画	順次実施	→	→	
実績	順次実施	→	→	

(22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

- 品川駅周辺のまちづくりにあわせて市街地再開発事業と一体となって実施する泉岳寺駅の改良について、ホームの拡幅やコンコースの拡張、エレベーターの増設などに向け、準備工事を進めました。なお、市街地再開発事業との工程調整が必要なため、拡幅ホームの供用開始予定時期を令和9年度としました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕泉岳寺駅の大規模改良				
計画	順次工事実施	→	→	拡幅ホームの供用開始は 令和6年度(予定)
実績	順次工事実施	→	→	拡幅ホームの供用開始は 令和9年度(予定)

◆ 観光振興及び文化振興への貢献

(23) (24) 観光施策・文化施策との連携強化

- 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムである「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」への協力として、大江戸線上野御徒町駅構内においてオペラのメロディを放送するなど、他の鉄道事業者等と連携して、広報活動に取り組みました。
- 局が所蔵する歴史的資料について、資料の整理・保存を進めるとともに、東京都交通局デジタルアーカイブに所蔵している写真を順次公開したほか、自治体主催のイベントへ資料の貸与を行うなど、広く活用を図りました。



歴史的資料（左：都営浅草線開業時の写真 右：円太郎バス）

◆ 持続可能な社会の実現への貢献

(25) 水素社会の実現への貢献

- 燃料電池バスについて、東京 2020 大会でのメディア関係者の輸送などに活用するとともに、民間企業からの寄付により、新たに1両導入し、計71両に拡大しました。
- 水素エネルギーPRの一環として、福島県浪江町産の水素を充填しバスを運行するとともに、同町の子どものデザインによりバスをラッピングしました。



民間企業からの寄付により導入した
燃料電池バス

(26) 省エネの推進と再生可能エネルギーの拡大

- CO₂排出量の削減に向けて、都営地下鉄において、駅等の照明器具の更新にあわせて、LED照明を設置しました。また、バス停留所においても、当初計画から規模を見直しつつ、LED照明の設置を進めました。
- 「省エネ・再エネ東京仕様」に基づき、局施設の整備にあわせて太陽光パネルの設置工事を進めました。
- 令和3年11月に、白丸調整池ダムに隣接する場所に、再生可能エネルギーPR館「エコっと白丸」をオープンしました。

※「エコっと白丸」は地元奥多摩町の小学生が考案した愛称です。



再生可能エネルギーPR館

「エコっと白丸」

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕バス停留所上屋へのLED照明の設置拡大				
計画	75棟	75棟	70棟	
実績	74棟	28棟	42棟	事業計画の見直し
〔2〕再生可能エネルギーPR施設の設置				
計画	監視所移設	PR施設開設	—	
実績	—	—	PR施設開設	

(27) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

- 都営交通の環境負荷低減に対する取組や公共交通の環境優位性について、駅ポスターや地下鉄車内液晶モニターの活用等を通じて、積極的にPRを行いました。
- 都営バスの更新車両（ディーゼル車）については、最新の排出ガス規制に適合した低公害車両とし、窒素酸化物・粒子状物質の削減に貢献しました。

(28) うるおいのある都市空間の創出への貢献

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道内緑化について、定期的な維持管理を実施するとともに、技術面や費用面の課題について検討を進めました。

◆ 沿線地域の発展への貢献

(29) 沿線地域との連携

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の魅力向上や沿線地域の活性化を図るため、イベント等を実施するなど、積極的なPRを行いました。
- 日暮里・舎人ライナーの魅力向上と沿線地域の活性化に向けて、イベント等を実施しました。
- 交通安全意識の啓発を図るため、都営バス営業所において、地元の警察署等と連携して、高齢者や小学生等を対象とした交通安全教室を開催しました。



都電クリスマス号

◆ 福祉施策への貢献

(30) 福祉インフラ整備への協力

- 都有地に関する問合せや活用の提案等を受け付ける「とうきょう保育ほうれんそう」に局資産の情報を提供するなど、福祉インフラ整備事業に協力しました。また、認可保育所等施設の整備を条件として事業者へ貸付けを開始した都営バス大塚支所跡地について、事業者の施設整備が計画的に進むよう、地元区等との調整を進めました。

(31) 子供の育成を支え見守る取組

- 小さなお子様連れのお客様が安心して気兼ねなく電車を利用できるよう、大江戸線で子育て応援スペースを設置した車両を 13 編成に拡大するとともに、一部の編成に新たなデザインを導入しました。



子育て応援スペース

(32) ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や都営バス営業所などでヘルプマークを配布するとともに、車内やホームドア、エレベーターにステッカーを掲出するなど、ヘルプマークの普及に協力しました。

◆ 都政情報等の発信への協力

(33) 都政情報等の発信への協力

- 地下鉄及びバス車内の液晶モニター等を活用し、都政情報等の情報発信に協力しました。
- 車両更新等にあわせて、地下鉄車内液晶モニターを 11 編成に設置しました。

(年次計画) -----

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕地下鉄車内液晶モニターの設置拡大				
計画	11 編成設置	11 編成設置	22 編成設置	
実績	12 編成設置	12 編成設置	11 編成設置	営業運行を開始した車両のみ実績に記載
〔2〕バス車内液晶モニターの設置拡大				
計画	200 基設置	300 基設置	—	
実績	—	500 基設置	—	

4. 経営基盤の強化

事業環境の変化にも迅速かつ的確に対応するとともに、中長期的に安定した事業運営を行っていくため、経営基盤の強化に向けて取組を進めました。

◆ 関連事業の推進

(34) 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、施設建築物等の整備工事を進めたほか、竣工後の利活用について検討を開始しました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区再開発事業について、関係者協議等に時間を要したため、再開発組合の設立認可は令和4年度以降となりました。

(年次計画)

	元年度	2年度	3年度	備考
〔1〕 大門庁舎（浜松町）の利活用				
計画	権利変換計画認可 工事着手	→	→	令和7年度以降 利活用開始（予定）
実績	権利変換計画認可 工事着手	→	→	令和7年度 利活用開始（予定）
〔2〕 都営バス新宿支所の利活用				
計画	—	再開発組合設立認可	権利変換計画認可	令和10年度以降 利活用開始（予定）
実績	—	—	—	令和11年度以降 利活用開始（予定）

(35) 広告事業の積極的な展開

- 車両更新にあわせて、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置を拡大したほか、東京2020大会開催時には、競技結果を速報配信しました。
- 広告付きバス停留所上屋について、民間事業者を活用した整備手法も取り入れながら、設置を拡大しました。



広告付きバス停留所

◆ 安定的な人材の確保と育成

(36) 運輸系職員の人材確保

- 事業を支える有為な人材の安定的な確保のため、バス乗務員採用専用のパンフレット・チラシ等の作成や、採用ホームページ、SNS 広告、Web 広告など、積極的な PR を展開したほか、応募者の負担軽減を図るため、Web 申込を開始しました。
- バス乗務員の養成型選考について、受験者の経済的負担の軽減を図るため、選考合格者を会計年度任用職員として採用した後、教習所に通り免許を取得する制度へ見直しを図るなど、受験者の裾野を広げる取組の充実を図りました。



職員採用ホームページ

(37) プロフェッショナル職員の育成と技術の継承

- 保守職員の技術力の維持・向上を図るため、研修所における研修や、外部の技術専門機関等を活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の保守職場において、模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- バスについては、新規採用者向けに、運転技量に応じたきめ細かな養成研修を実施するとともに、運転訓練車を活用した研修や民間教習所を活用したバス乗務未経験者向けの安全運転研修を実施しました。

◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

(38) 職員のやる気と能力を引き出す環境づくり

- 人事考課制度を効果的に活用するとともに、職員表彰の実績を共有するなど職員のやる気を引き出す環境づくりに努めました。

(39) コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令等を遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修の実施や、年2回のコンプライアンス推進運動において、自己点検や職場内ディスカッションを実施するなど、コンプライアンス意識の浸透・定着に努めました。

(40) ライフ・ワーク・バランスの推進

- 育児・介護と仕事の両立支援や超過勤務の縮減に向けた取組、フレックスタイム制の活用を推進し、職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図るとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえ、テレワークやオフピーク通勤を積極的に推進しました。

(41) 職員の健康管理の推進

- 職員の心身の健康増進のため、相談体制の充実やメンタルヘルス対策の強化を図るとともに、SAS 検診や脳 MRI 健診等を計画的に実施しました。

(42) ダイバーシティの推進

- 女性職員がより一層活躍できるよう、仮泊室の整備を進めるほか、障害のある職員に対し、障害特性に配慮した就労支援機器を貸与するなど、誰もが働きやすい職場環境の充実を図りました。

◆ 安定的な事業運営を支える執行体制の構築

(43) 組織の見直しと執行体制の強化

- 維持管理やお客様サービスの向上など、様々な分野でのデジタル技術の活用を推進していくための体制等の整備を図りました。

(44) 不断の業務改善への取組

- チャレンジ提案制度や技術発表会、若手職員のアイデアの積極的な活用等を通じ、自ら業務を改善する組織風土を醸成しました。
- 旅費や勤怠管理などの庶務事務や給与関係事務等の内部管理事務の見直しについて、給与明細の電子配信の本格運用を開始しました。

(45) 体系的なリスクマネジメントの推進

- 「リスクマネジメント委員会」において事業運営上発生する様々なリスクについての取組計画を策定し、定期的に取り組状況のチェックを行うなど、体系的なリスクマネジメントを推進しました。

(46) グループ経営の推進

- 局と関連団体とがグループ総体として最大の経営効果を発揮できるよう、団体からの研修受入など人材交流を進めるとともに、経営計画や人員計画等について事業の方向性を共有するなど、連携の強化を図りました。

5. 東京 2020 大会の成功に向けた取組

交通局では、大会に向けて、安全面の強化や駅施設のバリアフリー化、サービス向上の取組を推進してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により原則無観客開催となったものの、大会期間中は、関係者の輸送や、駅構内への装飾など、様々な取組を実施しました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営地下鉄の主な取組

■ 安全面の強化

ホーム上の安全対策の強化に向け、令和 5 年度までに全ての駅へのホームドア整備を完了するため、準備工事等を進めました。また、テロ対策への対応として、地下鉄車内や会場最寄駅等への防犯カメラの設置を進めるとともに、大会期間中には、AI 等の新技術を活用し、カメラ映像の解析により不審物の置き去り等を検知するシステムを活用しました。

→2, 3 ページ再掲

■ 駅施設のバリアフリー化

乗換駅等でエレベーター整備を進めるとともに、大江戸線環状部のトイレの洋式化を完了したほか、ベビーシートの設置、段差解消など、誰もが使いやすいトイレに順次改修しました。

→7 ページ再掲

■ サービスの向上

操作性が高く 8 言語に対応した券売機を、外国人利用者の多い地下鉄 32 駅に導入するとともに、駅構内における案内サインや行先表示器等の多言語化を実施しました。

■ 気運醸成に向けた取組

車両ステッカーやホームドアステッカーの掲示をするとともに、大会期間中には、統一的なデザインによる駅構内の装飾を実施しました。

◆ 東京 2020 大会に向けた都営バスの主な取組

■ 大会期間中の対応

選手・大会関係者輸送のほか、メディア関係者輸送を実施しました。また、一般路線では、大会期間中の交通規制に適切に対応しました。

■ 水素社会の実現への貢献

燃料電池バスについて、メディア関係者輸送などに活用するとともに、民間企業からの寄付により、新たに 1 両を導入し、計 71 両に拡大しました。

→13 ページ再掲

■ 気運醸成に向けた取組

バス車内液晶モニターを活用した P R 動画放映等を実施しました。